

令和2年2月18日(火) 第38号



さあ、学年末テスト!



インフルエンザの猛威が鎮まるのを待っている間にも、時間は刻一刻と過ぎていき、2年生の学校生活も残り1か月ぐらになりました。明日からはもう学年末テストが始まります。テスト勉強は十分にはかどっているでしょうか? 今日は、テスト勉強のお話をしようと思います。

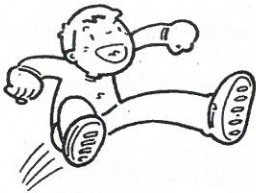


定期テストは1年に5回あります。それらの定期テストに、課題テスト・実力テストがあるので、年間では7回の大テストがあります。今週の学年末テストが2年生最後のテストなので、14回目のテストということになります。《テスト勉強》の方法は、身についてきましたか? たとえば、各教科で使っている問題集やワークがテスト範囲になりますが、しっかりと取り組めていますか? 問題集やワークは提出物になることがほとんどなので、きちんと提出している人がたくさんいます。しかし、残念ながら「解答を丸写ししている」(×)のような人も多少はいるようです。もちろん、学習効果は1ミリもないといわざるをえません。

では、それ以外の人は「しっかり取り組んでいる」(○)といってもいいのでしょうか。自分の取り組み方を振り返って、よく考えてみましょう。学習のポイントは「答え合わせ」のときにあります。みんなの自習の様子を見ていると、自分で問題を解いた人でも、その後の答え合わせで、「×をつけたら機械的に正解を書き写している人」が多いようです。確かに、単に「知識を問う問題」(暗記系の問題)のように、その方法でも学習できるものはありますが、テストはそのような問題ばかりではありません。知識ではなく「能力を問う問題」では、「なぜ間違ったのか」、「どこで間違ったのか」、「どうすれば正解になっていたか」ということを「考える」必要があります。それを考えずに、ただ単に正解を書き写すという姿勢では、「考える」力が身につかないので次も同じ間違いを繰り返します。



“考える”とは、正解にたどり着くまでの道筋を“考える”ということです。それなのに、すぐに正解だけを求めて、“考える”ことをサボっている人が一定数いるように思います。自分に合った勉強方法を見つける際には、ぜひそのことも忘れないでください。まずは今日からの3日間は、自分が間違った問題・わからなかった問題を“考える”・“考え直す”ことから始めてみましょう。



自分を成長させるもの



私たちの心の中には《天使》と《悪魔》がいるなどといわれます。たとえば、赤信号を前にして、「青になるまで待とう」と考える自分と、「車も来ていないし、渡っちゃおうかな」と考える自分のようなものです（※信号無視は道路交通法違反です）。心当たりはありますか？

人間とはどういう存在なのか。2000 年以上も前の中国で、この問題を考えた思想家がいます。次の2つの考え方を読んで、どちらに共感しますか？ あるいは、どちらとも反対しますか？



【A】性善説

人はみな、誰かの不幸を見過ごせない心をもっています。たとえば、幼児が階段から落ちようとしているのを見ると、何も考えずとっさに助けようとするのが普通だからです。このとき、「人から褒められたい」などと打算的に考える人はいません。人は誰でも「誰かの不幸を悲しむ心」「善悪をわきまえる心」「人を助けたいと思う心」を、生まれながらにして持っているものです。



【B】性悪説

人が“良い行為”をするのは、努力によるものです。人は誰でも利益を好みます。また、生まれながらにして憎む心を持っています。こういった“生まれながらの心”に従って生きれば、必ず争いが生じ、世の中は混乱します。だから、そうならないように、指導者に教えを受け、正しい生き方に導かれる必要があります。“良い行為”をする人になるためには、努力が必要です。



上の2つの考え方は、《性善説》・《性悪説》として有名なものです。2000 年以上たった現代でも、必ずしもどちらかが正解だと断定できないような、奥深いテーマであるように思います。また、価値観が多様化している現代は、上の2つの考え方に対して、「こちらが正解！」と答えを出すことが大切なのではないともいえます。大切なことは、この2つの考え方を理解して、自分の考え方・自分の生き方をより良いものにしていくことです。

「《天使》と《悪魔》」という表現でなくても、少なくとも、私たちの心の中には、「良い自分」と「悪い自分」がいることは認めてもよいと思いませんか？ たとえば、「テスト前だから勉強しよう」と考える自分と、「しんどいから勉強したくない」と考える自分との闘いには、誰しもが悩んでいるでしょう。また、人を見て「羨ましいな」と嫉妬する自分、ウマの合わない相手を「あいつ、嫌いだな」と憎んでしまう自分、どれも認めたくない、マイナスの感情をもつ自分だと思いますが、そんな“悪い自分”の中にこそ、自分が成長するきっかけがあるような気がします。「悪い感情をもつ自分」を認めることから自分の成長が始まる」と考えてみてはどうでしょうか。

保護者のみなさまへ

中学2年生になってくると、いわゆる思春期に入り、ご家庭でも子どもたちとの対応に悩むことが増えてきているのではないのでしょうか？ これまでと同じ言葉をかけているのに、これまでと同じような反応が見られないこともあるかと思います。中学校でも同じようなことはあり、私たちも日々悩んでいます。何かお困りのことがありましたら、私たち教員に相談していただくのもひとつです。同じ悩みを共有する者同士、違った視点から前向きなお話ができるのではないかと思います。